
ノルウェーの
特集 教育と文化

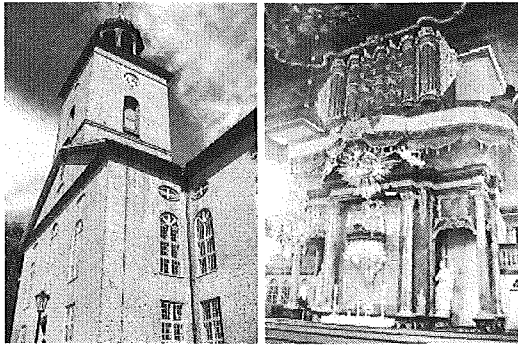
『教会美術 in ノルウェー』

名古屋大学学生 滝口敦子

私は教会の持つあの独特な雰囲気を感じることや、柔らかな絵画・ステンドグラスを見ることが好きで、教会美術に興味を持っています。今回のノルウェーでは、たくさんさんの教会を見学させていただくことができました。

ノルウェーで最も大きなバロック教会と

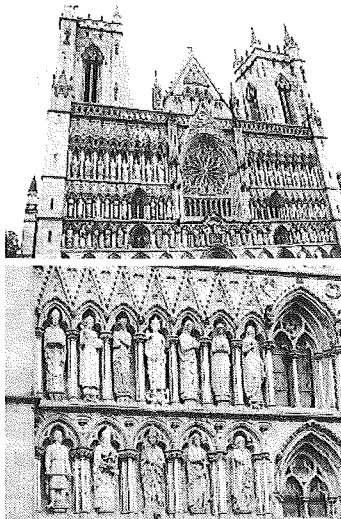
言われている、コーンスベルクの教会の外観は思っていたよりも簡素なものでした。しかし、その中に入ると驚いたことに壁・天井一面に美しい絵画がほどこされており、正面には豪華なパイプオルガンがどっしりと構えていました。それらの細かな装飾も素晴らしいものでした。この外観と内



装とのちがいが逆にこの教会の存在感を引き立たせているように思いました。

トロンハイムにあるNidaros大聖堂は外の壁に約60人の使徒・聖者の彫刻がなされて外観は華やかな印象でした。これら

の彫刻は一体一体ちゃんと顔があり、表情がありました。また、非常に細かいところにも装飾の彫刻がされていたことにも感動しました。もともとこの教会は、



かつてのノルウェー王の墓跡に建造されたもので、この優雅なたたずまいから“北歐一素晴らしい荘厳な大聖堂”とも呼ばれていたことで知られています。まさにその呼称ぴったりといったような教会でした。内装はと言うと、外観から連想される豪華絢爛なイメージというよりもむしろとても厳かで落ち着いた雰囲気を持つ空間になっていました。特に私が感動したのはステンドグラスです。聖書の『放蕩息子』などとい

ったお話がステンドグラスになっていました。また入口の真上にあった大きな丸いステンドグラスの存在感は格別で、内装がシンプルである分、光を受けたステンドグラスがとてもきれいに輝いていました。

木造教会はかつて多くつくられていたようですが、その維持に多大な労力や費用を要するといった理由でほとんどが取り壊されていったそうです。今回、私たちが見学したHeddal Stave教会は“木造教会”なので当たり前なのですが本当にすべてが木できていて、普通の教会にはない温かみを醸し出していました。さらに、私ははじめ木だと画が目立たなく地味になってしまうのではないかと考えていましたが、そんなことはまったくなく、それらの木には彫刻されていたり、画が描かれていたりしてまったく地味な印象を受けませんでした。

このように、ノルウェーではまったく違う種類の3つの教会を見ることができました。その形や印象は異なっていましたが、どの教会にも共通して落ち着いた空間がありました。これらの教会の細やかな細工、装飾などはどれも素晴らしく、私と同じ人間がほどこしたものとは思えませんでした。今回の見学を通して、今までよりも一層教会美術に興味を持つことができました。

